

2 学年修学旅行

～ 東京での4日間の研修を通して、大いに成長～



12月3日(日)から6日(水)の日程で修学旅行を行いました。主な内容は、以下のとおりです。

- 【1日目】 浅草地区の名所旧跡などを見学し、浅草演芸ホールで落語などの日本の伝統芸能を存分に堪能しました。
- 【2日目】 事前にアポイントを取った企業や大学・専門学校等を班別に訪問し、自分たちの将来のことや社会のことについて考える良い機会となりました。夕食のちゃんこ鍋は、初めて食べた人も多かったようです。
- 【3日目】 六本木の「ハッシャダイソーシャル」での研修では、「チームラボ」の最先端のテクノロジーが活用されているオフィスを見学し社員の方々とも交流。東京ディズニーリゾートでは夢のような楽しい一時を過ごしました。
- 【4日目】 お台場や国会議事堂を訪問。最後まで東京を楽しみました。



峯乃都佳さん(志佐中出身)は「あっという間の4日間だったが、本当に沢山の方々に支えていただいて、無事に修学旅行を終えることができ、今はとても安心している。東京の人の多さや建物の大きさには圧倒されたが、同時にそうしたことを心配せずに済む松浦の良さを再認識することができた。班別自主研修の大学訪問では、外国人の多さに驚きと多様性を感じた。生活班の班長としてちゃんとやれるかどうか、初めはとても不安だったけれど、班のメンバーがとても協力的だったので、今は『やってよかった』と心から思っている。この修学旅行で得たものを、今後の学校生活に活かしていきたい」と感想を語りました。

主権者教育

～ 近未来の有権者たち、選挙制度と政治参加の意義について深く学ぶ～

11月30日(木)、1年生を対象に主権者教育を行いました。松浦市選挙管理委員会と松浦市明るい選挙推進協議会より講師をお招きし、講演や動画視聴、模擬投票などを通して、実際の選挙の流れや高校生としての選挙に対する心構えなどについて学びました。特に模擬投票では、実際の選挙の際に使用される投票箱や記帳台をお借りし、各クラスの代表生徒が本番さながらの選挙を体験しました。松坂咲良さん(御厨中出身)は「選挙権年齢が18歳に引き下げられたのは、若者の意見をより多く政治に取り入れていくためだということがよく分かった。私たちも18歳になったら選挙に行くべきだと思った」と語りました。



チョコっとボラんていあ松高（チョコボラ）

～ 松高生一同、地域の環境美化に貢献 ～

本校では「チョコっとボラんていあ松高」（通称「チョコボラ」）という活動を行っています。これは、各クラス単位で週に1回、昼休みまたは放課後に学校近くの清掃を行うというものです。12月6日（水）には3年2組の生徒たちが「チョコボラ」に取り組み、日頃お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを胸に、全員で協力して学校周辺の歩道に散らばる大量の落ち葉を除去しました。3年2組美化委員の坂本遥菜さん（田平中出身）は、『チョコボラ』をするたびに、いつもすがすがしい気持ちになったが、卒業によってそれももうすぐ終わりかと思うと、少し寂しい気分になる。3年間の『チョコボラ』を通して、地域の環境美化に貢献できたのであれば、とても喜ばしいことだと思う」と語りました。



松高学び場

～ 松高生、放課後・休日の学習会を通して、学力向上と進路実現を図る ～



本校では、7月下旬から「松高学び場」を開設しています。これは、平日は午後6時～午後9時、休日は午前8時30分～午後4時30分の間、本校のコモンホールで行っている学習会で、受験を控えた3年生を中心に、松高生が学力向上と進路実現を目指して自学自習に取り組んでいます。

望月淳ノ介さん（3年 志佐中出身）は「松高学び場では、頑張っている友人の姿を目にしながらか学習できるので、学習に対するモチベーションが上がる。分からないところを先生方に質問できるのも学び場のいいところだと思う」と語りました。

「税に関する作文」表彰式

～ 本年度も4名の松高生が表彰状をゲット ～

11月20日（月）、松浦市市民福祉総合プラザにて「税に関する作文」表彰式が行われ、本校からは下記の4名の生徒が表彰されました。

〔松浦市租税教育推進協議会会長賞〕	山崎 恒希 さん（1年 志佐中出身）
〔 " " 優秀賞〕	増田 あい さん（2年 志佐中出身）
〔 " " 優秀賞〕	久保川 一 さん（2年 調川中出身）
〔県北振興局局長賞〕	吉田 夢那 さん（1年 志佐中出身）

5年度税に関する作文表



山崎さんは「表彰されたことは素直に嬉しい。今後も税について学びを深めていきたい」と話しました。

「令和5年」

校長 舟越 裕

毎年この時期になると、日本漢字検定協会が発表する「今年の漢字」が発表されます。今年は、「税」でした。ちなみに、2位から5位は「暑」「戦」「虎」「勝」で、まさに今年の世相を現す文字となっています。また、過去を振り返ると、2020年は「密」、2011年は「絆」、1995年は「震」となっており、日本史の勉強にもなります。

さて、松浦高校にとって令和5年は、昨年度に引き続き「普通科改革」の研究指定の中で、教育内容の充実に取り組んできた1年でした。「まつナビ」では、「まつら高校応援団」をつくり、地域の企業・事業所の皆さまからの支援をこれまで以上に受けることができました（3月には2年生全員がインターンシップでお世話になります）。また、「松高学び場」では、市民の皆さんに自習監督のご協力を得ながら、生徒の学力向上を図ることができています。

こうした中で松高の今年の1字を考えてみると、地域と連携した新しい取組からは「携」（ケイ、たずさえる→連携）や「挑」（チョウ、いどむ→挑戦）という字が思い浮かびます。また、最近の高校教育では「越境」という言葉が、よく使われています。生徒や教職員が、学校の枠を「越」えて共に学ぶことの意味で使われています。「越」えることにより、様々な出会いがあり、様々な考えを知り、視野を広げ、学びを深めることができます。今後も、松高は生徒が地域に飛び出し、学校の枠を越えて学び、成長できる学校づくりを進めていきます。令和6年もよろしくお願ひいたします。



松高
YouTube



松高
ホームページ



松高
Instagram



松高
月間行事予定